

## 令和5年度 富山県農政審議会の概要

1 日 時 令和5年11月10日（金） 10：00～11：40

2 場 所 富山県民会館8階バンケットホール

3 出席者 委員17名、代理出席2名（委員数24名）

4 あいさつ（横田副知事）

本年度は、記録的な猛暑と集中豪雨で生産者にとって厳しい年となった。そうした中でも、富山県の育成品種の富富富は、暑さへの強さを発揮できたと思う。6月には食育推進全国大会inとやまを開催し、2万3千人を超える入場者ということで、多大なご協力、ご支援をいただいたことを御礼する。

施策の推進については、大きな課題である園芸では、マーケットインの考え方に基づく園芸拡大研究会を開催し、人材育成については、富山大学と連携し寄附講義を開設、公開講義も実施しており、とやま農業未来カレッジの定員拡大や内容の充実も着手している。環境に優しい農業としては有機農業のアドバイザー制度を開始。県産品の販路拡大では、輸出や米粉利用の拡大に取り組んでいる。

本日は、「富山県農業・農村振興計画」の進捗状況について、ご審議いただく。限られた時間であるが、委員の皆様のご意見、ご提言をいただきたい。

## 5 会長選任及び職務代理者の指名

- ・委員の互選により、酒井委員を会長として選任。
- ・酒井会長の指名により、寺井委員を職務代理者として選任。

### 【酒井会長あいさつ】

- ・国の基本法の見直しのなかで、地域がどうなるのか考えていかなければならない。農政審議会は、国と地域の結節点として大事な会議。地域の実情を知っているのは県や市町村なので、地域で実際に何に困っているのかを知って、政策を進める重要な会議である。

## 6 議 事

- ・「富山県農業・農村振興計画」の進捗状況等について

## 7 審議事項についての委員の主な意見

- ・ 県産農産物の加工、輸出のリーディングプロジェクト等で販路開拓を行っている。北米での販路拡大は、オーガニックが前提となっている。有機米を輸出するため、中山間地等でオーガニックを勧めたらどうか。値段も1俵3～5万円ぐらいで、それを使ってもらえるように。日本酒1本97万円で販売しているところもあるので、高付加価値・高価格化の農産物・加工品に取り組むのはどうか。
- ・ 富山米全体の1等米比率56.8%に対し、富富富は95.1%と高い品質であった。富富富の生産拡大の加速化、JA共乾施設での受け入れ促進に向けての具体的な施策について伺いたい。  
⇒（事務局）富富富の戦略推進会議で3つの課題を説明した。地域の特性に合った指導体制の強化。計画的な種子生産。地域の共同乾燥調製施設での受け入れ体制であり、施設の改修整備を支援する事業を行っている。
- ・ スマート農業が大区画ほ場で行われているが、大区画ほ場以外でもスマート農機が使えるように研究してほしい。
- ・ 中山間地の耕作放棄地が増えているので、ネックである草刈りで機械が入れるように傾斜が緩くなるように実験的に整備してほしい。
- ・ 子実用トウモロコシは、価格的に厳しいので支援してほしい。大豆よりも手間が減って面積をこなすことができ、大規模経営に合っているので検討してほしい。
- ・ 集落営農の人材確保で大変悩んでいる。30年前から集落営農を行っているが、70歳になってオペレーターをしている。定年延長となり、後継者が入らなくなっている。田植えの時期に人手がいるので、密苗技術や、直進キープ田植え機などを導入して、人手を減らし、若い人が取り組みやすいようにしている。集落で考えることだが、県でも集落営農に人材が来るようなことを考えてほしい。
- ・ 作物ごとの縦割りの計画になっていると感じ、農業全体が一体となってやってほしい。畜産の仲間が少なく、今後、有機農業を進めるうえで堆肥の確保など苦しいのではないかと。畜産経営の規模拡大や新規参入ができるような支援体制をやっていかなければいけない。
- ・ 中山間での獣害も被害作物を飼料に活用すれば、経営的に被害が少なくなるのでは。放牧が

できるような地域も設定したりして野生動物を減らすことにも貢献できる。

- ・ 経営者にとっては売り上げが大事だが、従業員にとっては所得が大事。担い手を育てる施策は大事だが、息子に農業をやらせることが幸せにつながるというビジョンが見えてこない。富山県で農業をすることで所得が上がることにつながることが重要。農産品の販売価格を上げること、生産性を上げることが必要。スマート農業でも機械を言い値で買って、農産物を相手の言い値で売るような構造では難しい。良いものをつくり売値を自分で決められるようになれば、よりよく作ろう、ブランディングしようということになる。良いものをいっぱい作ったら、売値が下がるのでは続かない。
- ・ 日本は人口が減っているが、世界は人口が増え続けて紛争もあって、穀物が不足する状況。世界に通用するような米づくりが必要ではないか。それぞれの農業者が取り組みやすい数値目標が示されたらわかりやすくなる。

⇒（事務局）振興計画の本体に、とやま型農業経営モデルで示しているが、有機農業やスマート農業などバリエーションを増やしていきたい。

- ・ 最近、大豆の刈り取り時に、イヌホオズキ類などの新しい雑草が増えてきた。つぶれると大豆が汚損するので、取り除かなければならない。外国の飼料から来たものであり、国内で飼料を作ることで被害を抑えられるのではないか。
- ・ 個人、法人の合併を進め、300ha規模の経営体をつくり、経営体ごと地域や品目のすみわけを行うのはどうか。合併に際して補助金等が活用できるようにしてほしい。
- ・ チューリップの生産者が減り不安であるが、10年後の計画を作っているが、10年後に集落営農は残るのかどうか不安。自己完結型の農家を応援することが大事という考え方もある。補助金で機械等を導入すると、無理して大型機械を買ってしまう例もある。
- ・ 5月15日以降の田植え、直播栽培なのでコシヒカリの品質が良かった。富富富も良いが、今までの技術で品質を良くして、1等米比率を上げることも可能。富富富の生産を増やして売れるのかわからない。
- ・ 世界的なエネルギー価格、飼料代が高くなっているが、国の支援策に合わせ、県でも支援をいただいて、大変ありがたい。肉の価格が、10月10日ぐらいから450円と25%下がってしまった

た。価格の安定制度があるが、それまで高かったので、出ないと思う。

- ・子実用トウモロコシの可能性は大きい。知多半島から飼料を運んできているが、輸送費がかかるため産地間競争で負けているので、地元の飼料が欲しい。2024年問題でトラックのドライバーの問題が出てくる。今後考えなければならない。

- ・とやま農業未来カレッジの学生の受入れをしているが、野菜ではなかなかもうからず、人件費で赤字で、野菜から撤退する人が多い。

- ・14名のカレッジ生を同時に研修の受け入れをしていたが、カレッジの定員が倍になると受け入れが難しくなる。

⇒（事務局）負担にならないように班編成をするなど、工夫をするなど検討しているところがある。

- ・食育を中心に活動しており、子どもたちが将来農業に携わってくれるように取り組んできた。地元の水稲農家の息子が農業未来カレッジを卒業して兄弟で農業をすることになった。集落営農が高齢化して、10年ももたない状況の中、若い人が農業に携わってくれるのはうれしい。食育を通して農業のすばらしさを伝えたい。

- ・土地改良の事業で、工事価格が上がって、基盤整備が2割減でしかできない状況。農家の高齢化が進んで、それに対応した圃場整備をしてほしい。今のままでは圃場整備の計画が達成できないのか心配。

- ・農業委員、地域の総代などの役員のなり手が少ない。今までは定年が60歳から65歳からになると、なかなか継続して役員になる人が確保できない。農業の担い手育成がしっかりする必要があり、若いうちから地域のために働いてくれる人を育成してほしい。

- ・食品の正確な知識の普及啓発をしているが、安全な食、地産地消を進めたい。学校給食の食材の利用率は指標として分かりやすい。カロリーベースだと米も含まれるので、富山県は高い数値だと思う。子どもたちの県産食材を食べる習慣づくりは重要。一つでもGlobalGAPを取ったならば、大きな目玉になる。

- ・学校給食の県産食材の活用率を上げることは進めていただきたい。農協の生活指導職員をし

ていて、小学校で指導することがある。今年は大豆を育てる取組の中で食料自給率について話した。収穫した大豆で味噌を作るなど夢を描いていたが、大豆は今年の猛暑で実がならなかった。農業の大変さを知って、食の大切さを教育の中で伝えてほしい。幼いことから農業に触れあうことで担い手不足の解消につながるのでは。今後の方向性に書かれているが、食育を通じて農業の大切さを伝えてほしい。

- ・ 6次産業化に関わっている。70～80代のお母さんたちの給料は高くないので、その技術を若い人が引き継ぐことはモチベーションがわからないかもしれない。改善してから引き継ぐ必要がある。
- ・ 販売面で、いいものがあるのに知られていない。目指す目標、わかりやすい目標があれば良い。プロモーションに出る、商品が並ぶとか、認定を取れば売れるなど、メリットがわかるロールモデルみたいなものをつくるのも一つの方策ではないか。
- ・ 持続可能な農業生産、みどりの食料システム戦略にうまく対応して書かれている。有機農業の推進、飼料自給、プラスチックフリーはまさしく課題である。現場ではどうしたらよいかという不満もあると感じるが、計画にある消費者に求められる競争力ある生産というところに注目している。エシカル消費が低いのが、日本でも急速に状況が変わると考える。2030年にはプラスチック肥料なしでできるようにする目標があるが、プラスチックコーティング肥料の活用を進めてきたことで、温暖化の影響もあるが、地力の減退によって適応力が減ってきていることを懸念している。緑肥、耕畜連携などを進めて地力回復を行うことは、消費者の求めることに直結するのではないか。
- ・ エシカル消費に関連して、畜産物の生産拡大の観点で、畜産のGlobalGAPが無い中で、肉牛でのJGAP取得の取組みに注目している。中央農業高校で北陸初の取組みを行っている。アニマルウエルフェアにも関心が高まっており、畜産でも取組みを頑張っていたきたい。
- ・ 農業未来カレッジの拡充はしっかりやってほしい。集落営農の状況は心配しているが、全国に先駆けて進めてきたものが、条件が変わってきて難しい問題となっているのだと思う。各地域で検討会をつくられたそうなので、しっかり検討して解決に向けて取り組んでほしい。
- ・ 南砺市では、有機農業、集落営農でいろいろ取り組んでいる。担い手の確保、新規就農者の

確保を進めているが、家族からの反対などで突然やめる例がある。収入が不安、農業所得が低い、生活ができないことが問題であることから、所得を高めための支援をやっていかなければならない。肥料価格の高騰でも議論があったが、価格転嫁も進んでいない。このままでは新規就農者が出てこないのでは。

- ・有機農業を進めているが、新規就農者が取り組む場合、売り先が難しい。学校給食に供給したいとの要望があるが、なかなか難しい。南砺市でスーパーとの提携を検討したが、規模が小さく難しかったため、県全体で売り先の確保の取組みを進められないか。
- ・中山間地域の獣害対策。防止柵などの対策をしているが、農業がしにくくなったところから耕作放棄地につながっている。被害防止だけでなく、鳥獣が適正な数になるような取組みが必要ではないか。野生動物の通路になっている県管理の河川の草刈りなどに取り組んでほしい。
- ・県内産の牛乳を安定供給のための施策として、今夏、熱中症で死亡した牛が多くいたと報道されていたが、今後も地球温暖化が進むと思われることから、県内の牛乳の安定的な供給をお願いしたく、乳牛生産者に支援をお願いしたい。
- ・鳥獣被害防止対策を支援し、安全な地域で安心して農業等に取り組むことができるような環境整備をお願いしたい。猛暑による影響で、例年にも増して熊、鹿、猿、猪等の被害が報告されている。

#### 【酒井会長】

- ・意見の中で耳に残ったのは、耕地の4割を占める集落営農のことである。75歳を超えた方が代表しているところもあり、私の見立てでは5年もつかなと感じる。オーガニックは、地域の農業のあり方も含めて力を入れていく必要がある。いずれにしても少しずつ取組みを進めてきているが、集落営農、オーガニックや農村RMOも、もう一歩前に進めていただきたいと思う。

#### 【横田副知事】

- ・会長が言うように、人口減少が大きな影響を及ぼすと思う。農業だけで解決するのは難しく、農業だけでなくいろいろな人を巻き込んで農業・地域の維持をしていく必要がある。世界を見ると、人口も増えて、日本食、食材の関心が高い。世界を視野に入れると日本の農地

は貴重な資源なので、維持し、発展させて次世代につないでいくことが重要である。また、スマート農業を始め、技術が大事であり、一朝一夕にはいかないが、スピード感をもって進めていかなければならない。消費者が農業への理解をしていただくことは重要なので、委員の皆様は富山県の農業への理解を進める取組みに参加してほしい。